今月の表紙

「卯年」

今年は卯年。十二支の4番目のうさぎ年です。

卯は東の方角、また「卯の刻」といえば、午前6時ころを指します。

ウサギというと耳が長く、目が赤く、毛は白、ピョンピョンと跳ねる動物を思い浮かべますが、これは私たちがよく見る日本白色種で、ほかにも多くの種類がいます。毛が白黒（または白茶）でパンダウサギとも呼ばれるダッチ、耳の下がったロップイヤー、耳の短いピーターラビットなどです。

日本では、古来ウサギを「1羽、2羽・・・」と鳥と同様に数えていました。この由来にはいろいろな説があるようです。

①獣肉食が禁止されていた時代、大きく長い耳の形が鳥の羽を連想させることから「ウサギは獣ではなく鳥」と見なして食肉としていたとする説。

②「ウサギはウ（鵜）とサギ（鷺）に分けられるから鳥」とこじつけて食肉としていたとする説。

③獲物は耳を束ねて持ち歩き、一掴みにすることを一把（いちわ）、二把（にわ）と数えたことから、のちの羽（わ）につながったとする説。　などなど。

しかし現在では、自然科学の分野では「匹」を使用し、文学や食肉として扱う場合を除き、生きたウサギは「匹」を用いるのがふさわしいとされています。

古事記にある「因幡の白兎」や鳥獣戯画に描かれているおどけたウサギなど、古来ウサギは人間と密接な関係をもつ動物と受け取られてきました。また、「うさぎとかめ」や「かちかち山」などの昔話が広く知られていますが、ときには悪役だったり、英雄だったり、だましたり、だまされたりと、さまざまな役回りで登場します。

最近、動物と直にふれ合えるコーナーを設置する動物園が増えてきました。ふれ合いコーナーの一番の人気ものといえば、やっぱりウサギです。

三谷東保育園に訪れた移動動物園でも、ウサギの周りは子どもたちの笑顔でいっぱい。ウサギをやさしく抱っこすると、気持ちの良いふわふわの毛並み。子どもたちは、ウサギの小さな鼓動をどう感じ取っているのでしょうか。生き物を大切にすることで、生命の神秘、尊さを感じてくれたらと思います。

今年も、幸せな1年でありますように・・・。（K）

目次 Contents

市長年頭あいさつ	3
平成22年を振り返って	4-5
中学生海外派遣報告	6-7
財政状況	8-9
人事行政の運営状況	10-13
愛知県知事選挙	14-15
パブリックコメントを募集します	16
市民相談	17
ふるさと自慢－塩津公民館 若者サポートステーション	18
読む水族館・図書館だより	19
遊びにおいでよ児童館へ	20
健康カレンダー	21
お知らせ	22-31
クイズまちがいさがし	32
ふれあい宅配便	33
男女いきいきフォーラム・ ぼくとわたしの写真館	34

ぼくとわたしの写真館は、裏表紙に掲載しています。